

あすなろ

校会
高員 号
女子 721
女委 第
熊谷 第
熊谷 第
2025年 6月 17日
発行

Always be yourself!
いつも あははしく
ありはじい!

2025年3月19日の放課後、

2024年度最後の読書会が開催された。今回の題材は江戸川乱歩の『赤い部屋』と2015年に発表されたそのオマージュ作品である法月綸太郎の『赤い部屋異聞』である。乱歩の『赤い部屋』は、プロバビリテイ(probability:蓋然性・確率)の犯罪をテーマに扱った作品である。プロバビリテイの犯罪とは、偶然を利用する犯罪のことで、例えば作中の主人公Tは、お婆さんが道路を渡るうとした時に「危ない!」と善意で注意を叫ぶことで立ち止まらせ反って交通事故に合わせたり、

知り合いの盲人が工事中の道を歩いているところに居合わせた際には、からかうような調子で「左に寄らな」と穴に落ちるよ」と言うとおちよくられていると思った盲人は右に寄ってしまい本当に穴に落ちて首の骨を折るといった通りである。『赤い部屋』とは、人生の退屈を紛らわすために猟奇的な体験や見聞を追い求める倶楽部のことであり、赤い部屋の新入会者は会の趣旨に合った話をするようになっていく。今宵の語り部Tはこのようにあらゆる刺激に飽きてプロバビリテイの犯罪を遊戯として生きてきたのである。

※以下、ネタバレ注意
そのうちに一人ずつ殺すことにも飽きて一度に大量の殺人を思いつく。それは躓いてしまったふりをし、線路に石ころを蹴飛ばし列車の脱線事故を引き起こすというもの。こんな風にこれまで99人の殺人を犯してきたTはついに百人目の被害者に自分自身を選び、これまでの罪を償う形で自殺を図った。かと思いきや、それは血糊を使ったトリックによる茶番であることが皆の前で明らかされ、単に赤い部屋のメンバーをだまして面白がっただけなのであったという所で話は終わる。

かという疑問が出た。『異聞』ではこの『赤い部屋』のモヤモヤする結末を、赤い部屋のメンバーであり、列車脱線事故で妻子を亡くした遺族の男性Kの視点から語らせることで見事に伏線を回収している。列車事故で妻子を同時に亡くし意気消沈していたKは、赤い部屋の主催者に偶然に再会して誘われたことをきつかけにある日『赤い部屋』に顔を出してみたら、なんとそこでは自分の妻子が殺された顛末が遊戯として語られるではないか! かつて赤い部屋の常連であったKは、会場の階段は古くあちこちにガタが来ていて、降り際に降りていく時に体重の掛け方を間違えると踏板が外れるようになっていたことを思い出し、咄嗟に『その踏板は危ないぞっ』と叫んだ。そうして聞かされたのは、『あつ』と間の抜けた悲鳴と、ドダダダつと階段を駆け落ちる音。Tの首は妙な角度で折れ曲がり、口から泡を吹きこと切れていたのだった。

車事故の遺族だと知った上で、復讐を遂げる方法を暗に示唆して、自分を殺害するように誘導した。③全てはTとKを同じ場にセッティングした主催者と赤い部屋のメンバーによって仕組まれた説。その目的は、妻子を殺された男性が復讐のために超えてはならない一線を超えて殺人者になる瞬間を目撃したいという赤い部屋らしい猟奇的な目的のためである。読書会の参加者同士で真実はどれであったかを考察し合ったが、回答はばらばらに分かれた。中には、実は『異聞』でのKの話も含めて奇妙な話をするという会の趣旨に沿っただけであって全て作り話だったのではないかという意見もあった。全体の感想としては、『赤い部屋』でモヤつとした結末が『異聞』で見事に伏線回収されていて楽しかった。自分では読まない古典の格調高い文章に触れられて良い機会になったといった声があった。

師曰く

☆☆☆ この記事は校内向けのため、非公開です ☆☆☆

このコーナーは熊女の先生から生徒たちへのメッセージです。

Kが後から冷静になって考察してみたことには、追加で3通りの仮説が考えられた。①実はTは善人で、本当に偶然に脱線事故を引き起こしてしまい、罪の意識に耐え切れず、殺人遊戯の数々の妄想を編み出して精神の均衡を保とうとした。赤い部屋での告白は、罪の意識を自分一人の胸の内に秘めておくことに耐えられず、誰かに話して楽になりたかった。②Tの計画的自殺説。罪の意識に耐えられなくなったTは、Kが列

今回は開催日までに時間があつたので、乱歩が『赤い部屋』を書くにあたり大きく影響を受けた谷崎潤一郎の『途上』も事前学習資料として読んだ。『途上』も夫婦間のプロバビリテイの犯罪をテーマにしており、病弱な奥さんを表面上は心から愛し心配するふりをして、療養のための様々な提案をするが、それらの提案は実は全て事故や病気にかかるきつかけを与えていたという話である。